案1

様式 32

研究No. (記載不要)	― ―

平成 23 年度配分 研究成果の概要

研究名	卒業生を活用した大学・社会架橋型教育に関する研究				
特別研究費 配分額	学長特別研究費 970,~~000~~ 千円				
特別研究費 執行額	906,~~226~~ 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏　名	共同研究の 場合の分担
	文化政策学部	文化政策学科	講師	小杉 大輔	総括・推進
共同研究者	デザイン学部	生産造形学科	教授	迫 秀樹	企画推進
	文化政策学部	文化政策学科	教授	林 左和子	企画推進
	デザイン学部	生産造形学科	教授	佐井 国夫	企画制作
	デザイン学部	生産造形学科	教授	黒田 宏治	企画推進
	文化政策学部	文化政策学科	教授	阿蘇 裕矢	企画推進

発表の方法 (予定で可)	1 紀 要	号 数	第 13 号 (2013 年 3 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:	発表日 (発表予定日)	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:	発表日 (発表予定日)	平成 年 月 日

注:配分を受けた翌年度の 6 月末までに提出

様式 33

研究No. （記載不要）	―　　―

平成 23 年度配分　研究成果発表報告書（実績）

研究名	卒業生を活用した大学・社会架橋型教育に関する研究				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費　970,000 千円				
研究者氏名（代表者）	学部名	学科名	職	氏　名	共同研究者
	文化政策学部	文化政策学科	講師	小杉大輔	他　5　名

発表の方法	1 紀　要 名　称:	号 数	第　　号 （　　頁～　　頁） （　　年　　月発行）
	2 学会等での発表 学会等名:	発表日	平成　年　月　日
	3 その他 冊子「卒業生がつなぐ大学と社会」を作成し、文化政策学科・生産造形学科の在学生および県内の高校に配布した。	発表日	平成 24 年 3 月 19 日

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

（研究の目的等）

学生が持つ進路イメージの充実に向けては、実社会（産業界等）の「生きた」情報の教育現場への導入が重要な課題である。

例えば、生産造形学科教員が H20～22 年度に実施した卒業生座談会やインタビューからは、入社数年の卒業生が在学生と企業デザイナーとの媒介役となり教育・交流効果をあげていること、また一部授業で卒業生の招聘が試みられているが、通常授業とは異なる学生の満足度が得られていることなどが明らかになってきた。

卒業生の実務に基づいた経験に関する情報は、学生にとって親しみやすく、それゆえ対話や情報吸収にも相応の効果が期待でき、学生のキャリアプラン形成にも寄与するものと考えられる。また、文化政策学科卒業生と生産造形学科卒業生の情報が組み合わされることで、商品の生産の企画から販売、消費までの過程、あるいは企業と地域社会との関係など幅広い視野を手に入れることが可能となる。

本研究では、以上のような実施・経過も踏まえ、卒業生（卒業後数年の実務経験を有する人物）の参加を得るかたちでの課外プログラムを実験的に展開し、最終的には卒業生参加型の大学・社会架橋型教育プログラムを構築していくことを目的とした。

（研究の実施方法等）

卒業生（卒業後数年の実務経験を有する）を特別講師として招聘し、文化政策学科の学生および生産造形学科の学生を対象とした特別教育プログラムを課外授業として実験的に展開した。受講の対象となった学生は両学科の1－3年生であった。

実施概要（日付はすべて平成 23 年）

第1回（7/14）　谷野亜希子（JA とぴあ浜松　雄踏支店／文化政策学科 2005 年卒）
第2回（7/21）　邊田紘一（河合楽器製作所デザイン課／生産造形学科 2005 年卒）
第3回（10/26）山口洋平（浜松信用金庫浜北支店／文化政策学科 2004 年卒）
第4回（11/2）　小沼加奈子（オルビス　マーケティング推進部／生産造形学科　2006 年卒）
第5回（11/24）阿部貴子（静岡新聞社営業局／文化政策学科 2007 年卒）
第6回（12/1）　近藤駿介（イトーキ　商品開発総括部／生産造形学科 2008 年卒）
第 7 回（12/7）森屋真衣（元　天竜厚生会／文化政策学科 2007 年卒）
第8回（12/14）吉永朋実（エイエイピー　クリエイティブ室／生産造形学科 2006 年卒）

各回の講義後には、職業的動機づけに関する質問紙調査（講義の感想も記述）をおこなった。また、講義の終了後、3 週間程度でニューズレター（A4・2頁）を作成し、参加学生等に配付した。

（得られた成果等）

特別講義は平日の 18 時からの実施であったが、8 回の講義で、計 80 名の学生の参加があった。

各回とも、講師となった卒業生は熱意をもって講義にあたってくれた。現在の仕事内容の紹介に加え、就職活動の振り返り、在学中の学習や私生活に関する振り返りについても詳しく話してくれた。そして、出席した学生を交えた活発な質疑が繰り広げられた。授業後の学生の感想からは、「参考になった」「これから頑張ろうと思った」のようなポジティブな意見が多く得られた。

なお、職業的動機づけに関する質問紙調査の結果からは、文化政策学科の学生と生産造形学科の学生の間に、就業意欲や学業意欲に差があることが示された（文化政策学科の学生のほうが低い）。このデータは、学科の教育に反映すべきものとして検討している。

すべての講義の終了後、上述のニューズレターをまとめた記録冊子「卒業生がつなぐ大学と社会」を作成し、在学生と県内の高校に配布することができた。

また、小杉は、この冊子を自身が担当する「組織心理学（後期水曜 1 時限目：文化政策学科専門科目）」の副読本として使用した。この講義は、職業的動機づけ（就業動機や目標）、企業内人材育成、人材管理、メンタルヘルスなどを中心に扱うものである。講義内容と、冊子の内容を関連づけることで、学生にとって講義内容が身近に感じられ、理解がしやすくなることを目指した。講義後のアンケートからは、このねらいが高い水準で達成できたことが示唆された。